



人の言葉を手話に翻訳するロボット「しゅわっと君」を開発した追手門学院大手前中学(大阪府中央区)の「ロボットサイエンス部」のチームが、ロボットコンテストの世界大会「ワールド・ロボット・オリンピックド(WRO)」のオープンカテゴリー中学生の部で、銅メダルを獲得した。同校ではメンバーらの凱旋報告会も行われ、チームリーダーで3年の辰巳瑛さん(14)は「とてもうれしい。応援してくれたすべての人に感謝したい」と喜びを語った。

(高橋義春)

平成26年に創部した同部には中学・高校合わせて約40人の部員が在籍し、自律型ロボットの設計・製作のほかプログラムやプレゼンテーションに至るまでを取り組んでいる。同部顧問の福田哲也教頭(51)は「『ロボットづくりは人づくり』を合言葉に宇宙をテーマにした教育を実践している」と話す。

人の手の形をした「しゅわっと君」は、中学生5人で編成された「WROチーム」が製作。会話を音声認識して色に変換してロボットに情報を送信し、手話の複雑な動きを表現する。プログラミング担当の辰巳さんが「両親が聴覚に障害があり、ロボットで耳の不自由な人とのスムーズな会話ができたら」と考

## 目指すはロボット世界一 追手門学院 大手前中・高生の挑戦



オープンカテゴリー中学生の部で銅メダルを獲得した追手門学院大手前中学のロボットサイエンス部のメンバーら。＝コストリカ(NPO法人WROジャパン提供)

### 競い合いから「人づくり」も

世界大会は中米コストリカで今月10日から3日間、開かれ、52の国や地域から約300チームが参加。コンテストは、プログラムでロボットを自動制御する技術を競うが、その一方で製作に至った経緯などを説明するプレゼンテーションも重要なポイントと占める。「持続可能な社会をつくるロボット」をテーマに、ロボット製作とその技術を発表するオープンカテゴリー部門で、追手門学院大手前中学チームは、プログラミング、工学デザイン、プレゼンテーションなどの総合評価で高得点を果たした。

こうした部員たちの活躍はWROだけにとどまらない。12月10日に名古屋市西区で開催の「ファースト・レゴ・リーグ(FLI)」や、12月24日に大



世界大会で競技に挑む追手門学院大手前中学のロボットサイエンス部員＝コストリカ(福田哲也教頭提供)



ロボットの組み立てなどの作業を行う追手門学院大手前中・高の「ロボットサイエンス部」のメンバー＝大阪府中央区

能なロボットの製作に取り組んでいる。これまでに、世界最大の国際ロボット競技会のメカニカル部門で1位を獲得したほか、ロボカップ全国大会4位などの成績を残し、全国有数のロボット競技会の強豪として名をさせている。

FLIのチームリーダーで高校1年の多田遥香さん(15)は「ロボットがイメージ通りの動きをしたときの快感は最高。競技だけでなく、各国の他チームとの交流も楽しい」と笑顔で話す。

ロボットサイエンス部の創設は、福田教頭が、米スペースシャトル爆発事故で死亡した高校教師、クリスタ・マコーリフさんの遺志を継ぐNASAの教育基金に着目したのがきっかけだ。「宇宙のすばらしさを伝える実践教育に基金を生かしたい」。米国人教師と日米の中学生によるロボット製作のプロジェクトを考案・申請して基金が

部員らの入部動機も「セミナーに参加してロボットの魅力にはまった」「幼いころからブロックで遊んでいて、ロボットづくりが大好きだった」などさまざま。将来の夢も「ロボットエンジニア」「大学教授」などと語る。

「勝ち負け」ではなく「成功失敗」の観点で考えよう」という福田教頭の指導のもと、部員たちは小さな部品と向き合っている。

らの支援を獲得。以来、全国でも珍しい創意工夫をこらしたロボットづくりを授業にとり入れ、ロボットの研究や研究成果などを発信している。部活動は平日の放課後に行っているが、大会が近づけば休日返上でロボットの最終チェックなどに取り組んでいる。

そんな部員たちの姿に木内淳詞校長(53)は「『解決力』『コミュニケーション力』という本校教育の軸になる力を身につけ、学外の人たちとも活発な交流を行っている」と目を細める。